

本道初 アミューレット導入

多様な左心耳対応で脑梗塞リスク低減

札幌市西区の札幌孝仁会記念病院（齋藤孝次理事長、入江伸介院長・276床）は、アボット社製の左心耳閉鎖デバイス「アミューレット（Amulet）」を本道で初めて導入した。脑梗塞予防を目的としたカテーテル治療に使用することで、これまでの既存の閉鎖デバイスが得意としない形態の左心耳症例に対応できるメリットを生かし、より多くの左心耳閉鎖を必要とする患者の治療につなげていく。

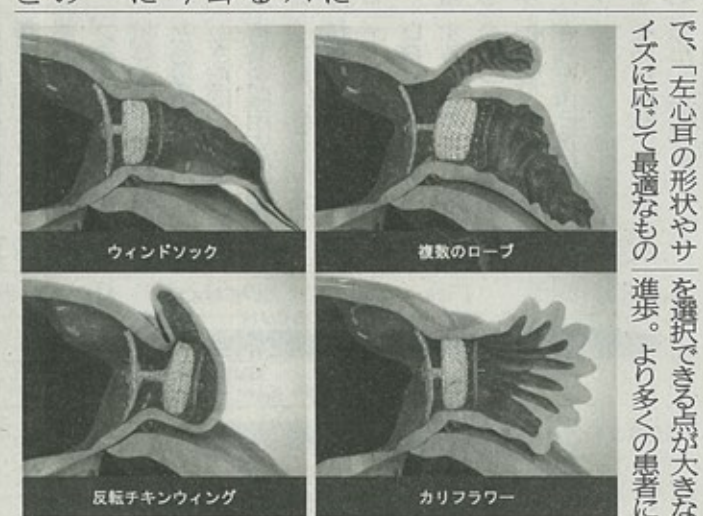
心房細動を有する患者により閉鎖することで、左心耳血栓の約9割は、左心耳血栓の形成とその結核を減らす予防的治療法である。経皮的左心耳閉鎖術は、この部分をカテーテルで挿入したデバイスに閉鎖するのが中心だった。

以前は開心術で外科的に閉鎖する必要があるが、三浦史郎循環器内科部長は「左心耳を正確に閉鎖できれば、生涯必要とされていた抗凝固療法を中止できるケースも多い」と説明する。治療後は8割程度の患者で抗凝固薬の中止が可能とされる。消化管出血の既往や転倒リスクのある高齢者など、出血リスクの高い人にとって、この治療は非常に大きなメリットとなる。

そのため、同病院では2021年より経皮的左心耳閉鎖術を導入している。これは経路部から挿入したカテーテルでデバイスを設置する低侵襲な方法で左心耳閉鎖を行っている。これまで50症例以上に実施し、良好な結果を得ているが、左心耳の形状は個人差が大きく、デバイスの形状が合

わず治療を断念せざるを得ない症例も存在した。今回、導入したアミューレットは、欧米ですでに広く使用されているデバイスで、出口を押さえる構造のため、浅い左心耳にも対応できるなど、今まで撤退していた症例にも治療の道が開ける。

三浦部長は、2種類のデバイスを用意したこと



で、「左心耳の形状やサイズに応じて最適なものを進歩。より多くの患者に積極的に予防治療を提供できるようなった」と強調する。

アミューレットを使用した治療を行うためには、初期は専門のトレーニングを受けたプロクター医師の立ち会いが必要だが、現在国内ではわずかな数人しかいない。「今後、プロクター資格を持つ医師が増えれば、道内でも導入施設が増えていくはず」と展望を語る。

同病院は循環器内科と心臓血管外科の連携が密で、チームワークも良く、患者本位の最善の治療を選択できる体制が整っている。「今回のアミューレット導入もその一環。多くの施設に当院の体制を知ってもらい、患者紹介してもらえれば」と意気込む。

また、今後、症例を重ね、プロクター資格を取得し、アミューレットの道内普及の足掛かりにもなりたい考えだ。

Hospital & Clinic

2025年（令和7年）11月3日（月）

北海道医療新聞 2面